

3

y

e

a

r

s

用箋

40文字詰め



—— 3年間。バラ色のキャンパスライフを夢見て大学の門をたたいてから、早3年間はたった。バラ色のキャンパスライフが送れたかどうかはよしとして、現在は、「シューカツ」という今後の人生を左右するであろう一大イベントの真っ最中である。そんな「シューカツ」があり、自分の大学生活を振り返る機会がよくある。

—— 自分は大学生活3年間なにをやってきたのか。

—— 何を感じたのか。

—— 自分自身変わったのか。

そんなことをよく考える。この本はこの私の大学生活3年間の記録である。読者諸君には申し訳ないのだが、バラ色の恋物語とか、華やかなキャンパスライフなどといったお話は出てこない。（注意：私の大学生活が悲惨なものであったという訳ではない）上述の3つのポイントを軸に私の物語を綴っていこうと思う。この本を通じて、「私」とう人間が少しでも理解してもらえたら幸いである。

それでは、物語のはじまりはじまり。

## 竜馬になりたい

---



突然だが、私のロールモデルは「竜馬」である。

私は、高校三年生の頃に父親から薦められて司馬遼太郎の『竜馬がゆく』を読み、司馬遼太郎が描く竜馬像に強い憧れを抱いた。竜馬は周りから愛される人柄や行動力、人と人をつなぐ力をもっていたからだ。私は竜馬をロールモデルに「大学生活4年間で自分自身変わろう」という気概をもって大学に入った。いつかは竜馬のような人間に——。

そんなことを思って私の大学生「一年目」は始まった。



大学に入って、「バイトをせねば」と思った。自由に使えるお金がなかったし、なによりアルバイトとして働くことで、学ぶことがあるだろうと思ったからである。高校ではアルバイトは禁止されていたので初めての長期アルバイト（高校を卒業して、大学が始まるまで日雇いで引っ越しや工場でのアルバイトはしたことがあったが）。何をやろうと思ったときに、まずはある程度接客のできるコンビニから始めた。

私が働いたのはとある駅ナカのコンビニ。店舗の広さは4畳半ぐらい。とても小さなコンビニであった。レジのやり方、雑誌の返品処理の仕方、閉店作業（このコンビニは平日21時、休日19時閉店であった）などなど先輩スタッフに丁寧に教えて頂き、仕事にはすぐ慣れた。店舗のスタッフの方々、店長の人柄はよかったし、常連の方（なんと周りにコンビニがあまりなかったのでこの駅ナカのコンビニにも常連がいたのである！）とのやり取りも好きだった。

仕事に慣れてきたら、発注を私に任せてくれた。私の担当は「お酒とタバコ」。客層を考えて、どのお酒を入れればいいのか、どのくらいの量を毎週仕入れるのか、レイアウトはどうすれば見やすいか、商品を取りやすいか考えた。自分の仕入れたものが売れるとうれしかったものである。

そんなこんなで面白い仕事ができしたが、違うアルバイトを経験してみたくなった。



大学に入って「サークルに入ろう」と思った。「キャンパスライフといったらサークルだよね」という安直な考えである。私は小学校から高校までサッカーをやっていたが、大学ではフットサルをやりたいと思っていた。

サークルに入りたいとは思っていたが、バイト探しでうろうろしている中、どうやらいたるところで着々と新入生歓迎会が行われていたらしく、ではサークルを探そうとなった時に自分がサークル探しに乗り遅れていることに気がついた。どうしようと学校内をウロウロしていると、学校の掲示板に一枚だけフットサルサークルのチラシを発見した。私はこれ幸いとチラシに載っている連絡先にメールをし、新入生を交えた練習に参加させてもらえることになった。

練習当日。少し緊張して行ったが、他の新入生の方々、先輩の方々は優しく接してくれた。練習後の食事も楽しかった。サークルの雰囲気は自分と合っていた気がしたので、「サークルはここに決めよう」と思った。

このサークルはいわゆる大学のサークルの例にもれず、合宿や試合、文化祭などの行事もあり、楽しかった。1年生から現在まで所属しており、このサークルでの出来事は、いい思い出である。



1年生の時に始めたコンビニでのアルバイトを2年生の夏になっても続けていた。なんでこんなにこのアルバイトを続けているのかと考えたときに、仕事はきつくないし、なんとなく居心地が良かったからだという結論に至った。居心地がよいということはいいことだけれども、自分の中で、他のアルバイトも経験したい、とりわけチームで動くような所でバイトをしたいと思った。（コンビニでのアルバイトでは、基本的に一人で店をみることになっていた。スタッフは主婦の方が多く、自分以外に学生はいなかった。少し学生一人だし、働くときも一人で少しさみしかったので同時に複数人で働きたいという同期も合った。）

そんな中見つけたのが、某アパレルチェーン店でのアルバイト。ここでは、インカムを使ったり、店舗に複数人店員がいるということで、チームで働けるなどと思い、嬉々として入社。レジ業務はコンビニでやっていたのですぐ慣れた。

このアルバイト先で感じたのが、時間管理と情報共有の大切さだ。

このお店では、商品整理といって服を畳んだり、ハンガーにかかった商品をサイズ別に並べ直すなど、乱れている商品をきれいに陳列し直す作業をする。閉店後には、店舗内の全ての箇所を商品整理して、翌日開店できるような状態にする。スタッフの中に売り場指示者なる方がいて、商品整理を誰がどの場所を担当するか振り分け、いつまでに終わるかを担当者に聞く。閉店時間までに終わらなさそうであれば、フォローを入れたりして時間内に終わらせる。売り場指示者が全体の時間をマネジメントしているので、指示を受ける側は自分たちが商品整理をいつまでにおわれそうか報告しなければならぬし、実際に商品整理をしていて終わらなそうであれば指示者に報告しなければならない。個々人の時間管理が大切になるのだ。慣れない内はどのくらいで終わるのか、時間が全然読めなくて他のスタッフの方々に迷惑をかけてしまったが、慣れてくる

となんとかこなせるようになった。

また、店舗の中で複数人で働くので、情報共有は欠かせない。対応したお客様の情報、現時点での店舗の売り上げ、商品のことなど、必要に応じ適宜情報をインカム（無線）なりで共有する。必要な情報を分りやすく、簡潔に伝えるというコトが難しく思った。

ここでのアルバイトは今でも続けており、日々学ばせてもらっている。



2年生の夏が終わって、ゼミ募集が始まった。自分はマーケティングに少し興味があったので、マーケティングのゼミの説明を聞いたり、オープンゼミに参加したりして情報を収集していき、自分のなかで志望度はぐんぐんとのびていった。

そして、入ゼミ試験は始まった。エントリーシートめいたものをゼミごとに記入して応募。エントリーシートは応募したところ全て受かった（5つほど）が、その後の面接で全て落とされてしまった。あの時はとても辛かったように思う。倍率は高かったが、なんだか自分を否定された気分になってしまったのだ。一時期は鬱々とした日々を送っていたが、冬と春にまたゼミの募集が行われるということであったので、気を取り直して冬と春のゼミ募集に挑もうと考えた。

その春に出会ったのが、今所属しているゼミである——。（つづく）





3年も夏が終わり、私はチームでなにかを0から作り出す活動をしたと考えた。（いままでやってこなかったからである）そんな中見つけたのが、ワークショップの企画運営を実践的に学ぶ勉強会と、他大学の図書館での本を使った展示の企画をするプロジェクト。

ワークショップの勉強会では、参加者12名が3グループ（1グループ4名）に分かれて、半年をかけてワークショップの企画し、実践する。この勉強会では、ミーティングの進め方から、アイデアの出し方、ファシリテーションの仕方、イベントの告知の仕方まで様々なコトを学ばせて頂いている。3月中旬にワークショップを実践する予定である。

図書館での展示の企画では、モノづくりの難しさや、コミュニケーションの難しさを感じた。展示なので、見た目がどうなるのとか、いかに展示までの導線を作るかとかを考えなくてはならない。

また、プロジェクトのメンバーは7人いるので、それぞれで展示のイメージがすこしずつ違っていたり、作業を分担する中で行き違いが発生したりした。しかし、これらはコミュニケーションを密にとっていたら防げたのではと思った。なにかチームで一つのコトをやるという時はコミュニケーションが重要なんだなと実感したのであった。（それが長期になればなるほど）

この図書館での展示も現在は大詰めにさしかかってきており、4月に実際に展示を行う予定だ。



私の大学の3年間の物語はここでひとまずおしまい。

つらつらと大学生活について書き連ねてきたが、3年間で振り返ってみればいろいろあったなあと。ここに書ききれなかった出来事もたくさんある。無駄な事から、苦しかったこと、面白かったこと、楽しかったことまで。それら一つ一つが今の私を形づくっている。そう考えると何とも感慨深いものである。

「竜馬のようになりたい」だなんて思って大学に入ったけれど、少しでも近づけたらどうか。少なくとも入学前よりは、と思う。

実は、この本はとある会社の新卒採用の課題として書き上げたものになる。（この本はネットで公開しているので、会社名は伏せておく）改めて、自分の大学生活を振り返るいい機会になった。そういった意味で、とある会社の皆さん、ありがとうございます。

大学生活もあと1年間。自分の悔いの残らないように過ごしたいとおもう。それと、「シューカツ」も。

最後に、ここまで読んで読者の皆さんにお礼を申しあげる。

## 3years

<http://p.booklog.jp/book/67485>

著者 : k\_kane

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/keigokaneto/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/67485>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/67485>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ